

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 17年7月～内外需要の増加を背景に好調が継続

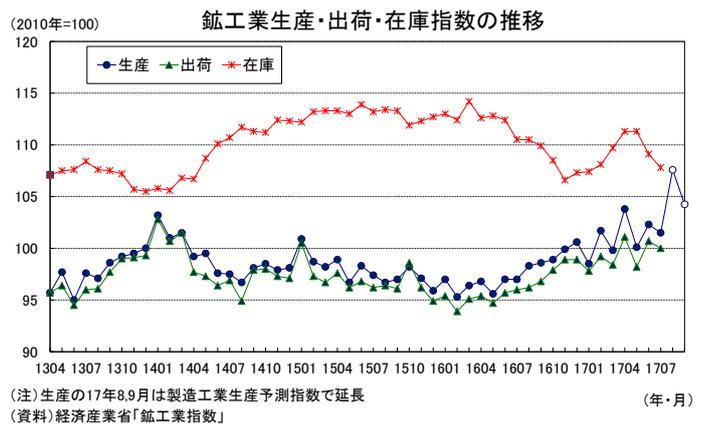
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 上昇、低下を繰り返しながら堅調を維持

経済産業省が8月31日に公表した鉱工業指数によると、17年7月の鉱工業生産指数は前月比▲0.8%（6月：同2.2%）と2ヵ月ぶりに低下し、事前の市場予想（QUICK集計：前月比▲0.3%、当社予想は同▲1.4%）を下回る結果となった。出荷指数は前月比▲0.7%と2ヵ月ぶりの低下、在庫指数は前月比▲1.2%と2ヵ月連続の低下となった。生産指数は16年12月以降、上昇と低下を繰り返しているが、均してみれば上昇基調が維持されている。

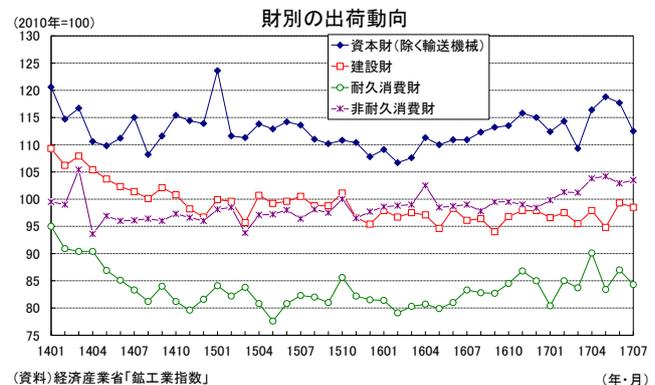
7月の生産を業種別に見ると、世界的なITサイクル改善を反映し、電子部品・デバイスは前月比4.3%と大幅に上昇したが、はん用・生産用・業務用機械（前月比▲2.5%）、電気機械（同▲2.9%）、輸送機械（前月比▲0.7%）など、速報段階で公表される15業種中、11業種が前月比で低下した（4業種が上昇）。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷指数（除く輸送機械）は17年4-6月期の前期比5.0%の後、7月は前月比▲4.4%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷指数は17年4-6月期の前期比0.8%の後、7月は前月比▲0.8%となった。7月の指数を4-6月期と比較すると、資本財出荷（除く輸送機械）は▲4.4%低い、建設財は1.2%高い水準にある。

17年4-6月期のGDP統計の設備投資は前期比2.4%の高い伸びとなった。企業収益の大幅増加に伴う潤沢なキャッシュフローを背景に設備投資は7-9月期も堅調に推移する可能性が高いだろう。

消費財出荷指数は17年4-6月期の前期比



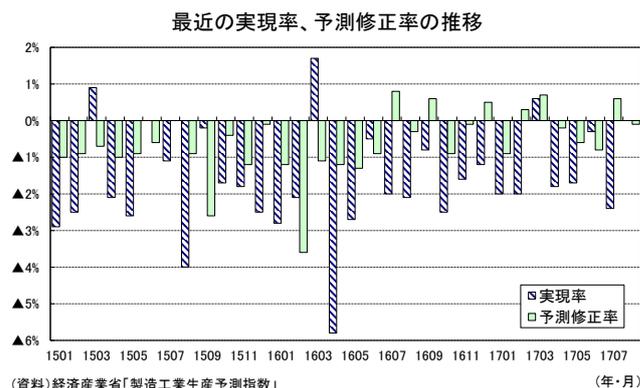
4.0%の後、7月は前月比▲1.3%となった。非耐久消費財は前月比0.6%（4-6月期：前期比2.8%）と上昇したが、耐久消費財が前月比▲3.1%（4-6月期は前期比4.6%）、と大きく落ち込んだ。昨日までに公表された7月の主な消費関連指標を確認すると、家計調査（実質消費支出）、百貨店売上高が前年比でマイナスに転じる一方、商業動態統計の小売業販売額が前月比で高い伸びとなるなど、強弱入り混じる結果となった。

GDP統計の民間消費は17年4-6月期には前期比0.9%の高い伸びとなったが、高い伸びの反動もあり、7-9月期は前期比で小幅なマイナスになる可能性が高いだろう。

2. 7-9月期も増産が確実

製造工業生産予測指数は、17年8月が前月比6.0%、9月が同▲3.1%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（7月）、予測修正率（8月）はそれぞれ▲2.4%、▲0.1%であった。

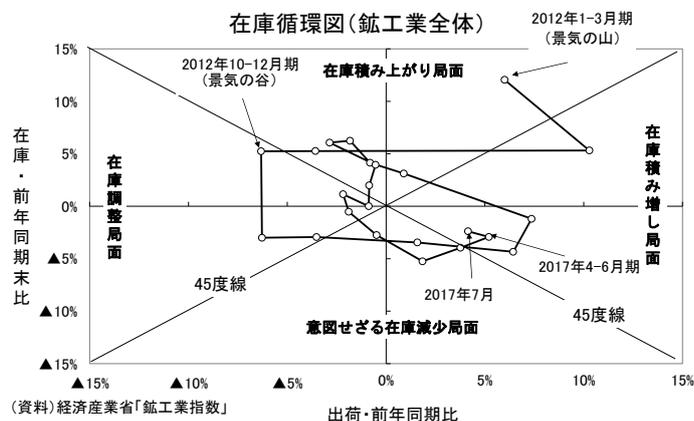
業種別には、はん用・生産用・業務用機械（8月：前月比11.0%→9月：同▲9.1%）、情報通信機械（8月：前月比10.8%→9月：同▲12.1%）など多くの業種で8月が増産、9月が減産となっており、実際の生産指数は8月以降も上昇と低下を繰り返す可能性が高い。



在庫循環図上は、17年1-3月期の「意図せざる在庫減少局面」から、4-6月期に「在庫積み増し局面」に移行したが、16年末から17年春頃にかけて上昇傾向が続いた在庫指数は6月（前月比▲2.0%）、7月（同▲1.2%）と大幅に低下しており、在庫が積み上がってしまう兆候は今のところ見られない。

17年7月の生産指数を8、9月の予測指数で先延ばしすると、17年7-9月期は前期比2.3%の高い伸びとなる。生産計画が下方修正される傾向が続いているため、7-9月期の伸びは4-6月期（前期比2.1%）を下回ることが見込まれるが、6四半期連続の増産は確実だろう。

内外需要の増加を背景に鉱工業生産は先行きも堅調に推移することが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。